

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名	県営須波住宅擁壁調査業務		
事業名 または 工事名	県営須波住宅擁壁調査業務		
調査目的及び調査対象	建築 盛土・埋立て盛土のり面		

ボーリング名		B-2		調査位置		三原市須波ハイツ三丁目17					北緯		34° 20′ 50.2″				
発注機関		広島県その他					調査期間		2023年 10月 30日 ～ 2023年 11月 1日					東経		133° 04′ 28.6″	
調査業者名				主任技師			現 場 人		コ 鑑 定 ア 者		ボーリング責任者						
孔口標高		KBM 0.16m		<div>角 度</div> <div><div>180° 上下 0°</div><div>90° 0°</div></div>	方位	<div>北 0° 270° 西 180° 南 90° 東</div>		地盤勾配	<div>鉛直 90° 0°</div> <div>水平0°</div>	使用機種	試験機 東邦地下工機D0-B						
総削孔長		16.00m				エンジン YANMAR NFD-12					ポンプ 東邦BG-3B						

標尺	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	地盤材料の工学的分類	色調	相對密度	相對稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験							試験採取			室内位置試験	削孔月日		
											深度-N値図	N	深度 (m)	100mmごとの打撃回数			打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	深度 (m)			試験番号	採取方法
														0 100	100 200	200 300								
1			細粒分泥り砂質礫		概ね暗緑褐				岩砕盛土で、全体に著しく不均質。 岩片は長径0.5～2cm、最大8cmで中硬質。 岩片は組織残存部が多い。	11/22 15.25		27 1.15 7 9 11 27 300												
2																	18 2.15 5 5 8 18 300	220	40					
3																	21 3.15 9 9 3 21 300							
4																	7 4.15 2 2 3 7 300							
5																	9 5.15 2 3 4 9 300							
6																	5 6.15 2 1 2 5 300							
7																	4 7.15 1 2 1 4 300							
8																	7 8.15 3 2 2 7 300							
9																	8 9.15 2 3 3 8 300							
10																	8 10.15 2 3 3 8 300							
11	-10.54	10.70			灰褐				旧地盤と想定される。 全体にやや均質。含水少なく、固結度高い。	11/22 15.25	21 11.15 6 6 9 21 300	18 12.15 6 6 6 18 300	68 13.15 18 22 10 50 220	375 14.05 50 40 50 40										
12																								
13	-12.94	13.10			黒褐				送水バック廻りで、見かけ棒状だが、外周は凹凸に富み、バックを外すと、分離して岩片状となる。 岩片は中硬質だが、数ミリ厚の層理に沿って手で割れ易い。 13.37～13.45m、軟質砂状コアのため、送水で流失。風化花崗岩と推定。 軟岩1、CL級。	11/22 15.25				40 15.00 0 50 0	40 16.00 0 50 0									
14	-14.34	14.50																						
15					黒褐				ダイヤピットの送水廻りで短柱状主体でコア外周は平滑。角度50～60度の細かい層理が発達し、この面に沿って割れ易い。 軟岩2～1、CM～CL級。RQDは概ね0。	11/22 15.25														
16	-15.84	16.00																						